

三重県
いなべ市

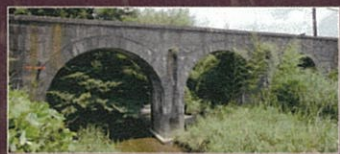
ねじり橋 (六把野井水拱橋)

人と水の架け橋として
歴史を刻んだ街の遺産

江戸時代に造られた用水路「六把野井水」に架かる鉄道橋として、大正5年に完成した「ねじり橋」。一番の特徴は、コンクリートブロックによるアーチ形状と、アーチ部分に見られる「ねじりまんぼ」の構造です。「まんぼ」は昔の方言で、レンガや石で造ったアーチ状のトンネルのこと。用水路に対して斜めに橋を架けるため、ねじりながら積み上げる特殊な技法が用いられています。コンクリートブロック製で同構造の橋は唯一といわれ、大変貴重なものです。現在も三岐鉄道北勢線の鉄道橋として供用されています。

めがね橋 (明智川拱橋)

ねじり橋から約230m西にある、明智川をまたぐ三岐鉄道北勢線の鉄道橋です。ねじり橋同様、コンクリートブロックを積み上げて造られており、三連式のアーチが美しく、ねじり橋に次ぐ撮影スポットとなっています。



ねじり橋・めがね橋

●所在地 / 三重県いなべ市員弁町下笠田
●竣工年 / 大正5年 ●認定年 / 平成21年度選奨土木遺産 ●問い合わせ / いなべ市役所 商工観光課 ☎(0594)46-6309 ●アクセス 三岐鉄道北勢線「楚原駅」より徒歩15分

土木遺産と 街さんぽ

私たちの暮らしと
街の発展を支えてきた土木遺産
今回は、中部エリア各地の土木遺産と
街の魅力をご紹介します

■土木学会選奨土木遺産とは
歴史ある土木構造物の保存を
目的に、公益社団法人土木学
会が創設した制度。昭和20年
代までに造られた土木構造物
を対象に、「土木遺産」の認定
を行っています。

※休みは定休日を記載し、年末年始やお盆、臨時休業などは省略しています。

※掲載している情報は2012年8月時点のものです。